

## 「遺伝要因と環境要因の相互作用による行動決定のメカニズム」

### 2018年度 遺伝研 研究会

[http://mgri-lab.jp/Meeting/Brain\\_workshop2018.html?category=5](http://mgri-lab.jp/Meeting/Brain_workshop2018.html?category=5)

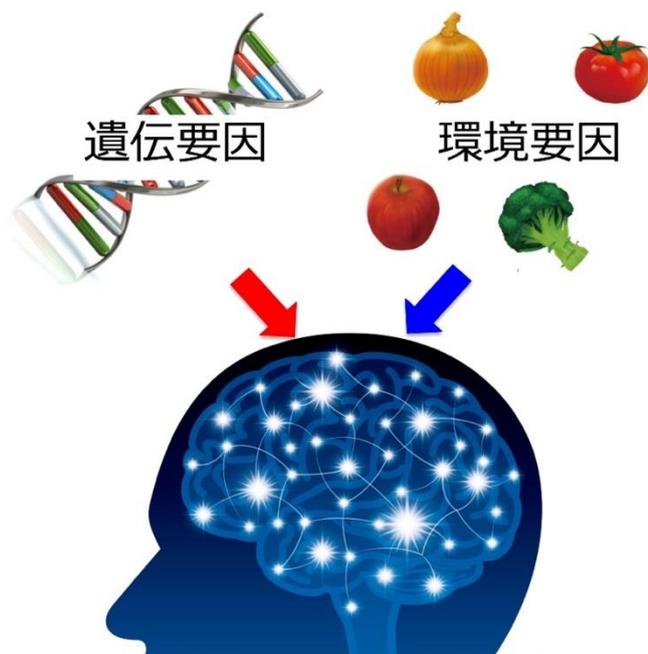
脳は環境変化に適応して回路・細胞・分子レベルで可塑的に変化し、その機能を最適化する能力を有しており、言わば、環境変化を受容する器官と言えます。本研究会では、環境要因が脳内に及ぼす変化、さらに、この変化にもたらす遺伝要因の役割・影響を回路・細胞・分子レベルで議論することを目的とします。

研究会代表者 喜田 聡 (東京農業大学)  
所内代表者 小出 剛 (遺伝研)

日時：2018年9月28日(金)午後1時～29日(土)午後0時30分まで

会場：国立遺伝学研究所内 講堂 (静岡県三島市谷田 1111 〒411-8540)

懇親会9月28日 18:30～(場所：講堂、懇親会参加費：有職者3000円、学生1000円)



古屋敷 智之(神戸大学)「社会挫折ストレスによる情動変容と自然免疫系の関  
高橋阿貴(筑波大学)「攻撃行動の個体差を生み出す神経回路と免疫系の相互作用」  
天野大樹(北海道大学)「雌・子供との社会関係によって変化する雄マウスの神経回路と行動」  
水関健司(大阪市立大学)「海馬・扁桃体・前頭前野による記憶と行動決定のメカニズム」  
萩原 英雄(藤田保健衛生大学)「脳内中間表現型：遺伝子と行動をつなぐためのキーコンセプト」  
水田恒太郎(京都大学)「アルツハイマー病の海馬神経回路破綻過程～環境要因を用いた治療戦略に向けて～」  
関口正幸(国立精神・神経医療研究センター)「食による脳内情動回路の遅発性活動変化：精神・神経疾患との関わりを模索して」  
吉崎嘉一(愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所)「マウスの社会的促進行動の系統間比較」  
小出剛(遺伝研)「社会的順位がもたらす行動と脳における遺伝子発現の個体差」  
小林和人(福島県立医大)「視床線条体路を介する行動選択と切り替えの調節」  
喜田聡(東京農大)「生物時計による記憶想起制御」

**ポスター発表を募集しています！**発表者には一部旅費のサポートも検討いたします。ポスター発表と参加登録は7月下旬よりウェブサイトにて開始します。

**研究会終了後(29日午後)にフットサル大会を開催しますので、奮ってご参加下さい。**